



4月18日 教祖御誕生祭

ひきよせ

感謝をつなぐ春のおちば



4月25日 回廊心のきしん



4月26日 登殿参列

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

大教会月次祭 5月15日(木) 9時30分
少年会総会 24日(土) 9時受付
第50回婦人会夕張支部総会 6月22日(日)
青年会夕張分会総会 28日(土)

親神様が

私達を信じている

思考を止めてはいけない。どうすれば、いつも親神様一筋の、神一条の強い心を持てるのだろうか、仕事や暮らしに追われながらも、おやさまのお言葉、を色々な書物から読み漁り、考え続けて来ましたが、近頃、自分の信仰に考えの転換が起きました。

自分は親神様を信じる、何がなんでも信じたいのだと、いつも反芻してないと迷いが生じる私ですが、用木として足を運び、動いた時に、「先回りのお働き」を見せて頂き、先方が喜んでくれるという出来事が続き、「私を信じてくれているのは親神様の方なのか。」と思うに至りました。こちらが信じるよりも前に、親である神様が子供の私を信じていると実感が湧いたのです。

おふでさきに、人間が我が子を信じる気持ちと神も同じである、と書かれている意味がやっと胸に治まった気がしました。信じる事で親が応えてくれると思っただけでしたが、これからは、親が信じてくれているから応えたい、という信仰になって行く気がします。そして全ての人が兄弟姉妹ですから、喜んで貰えるなら、相手は誰でも良いと思って行動したいと思います。

大教会長 藤田大和

ようぼく 一斉活動日

会場ごとに開催日・開催時刻が異なります
QRコードの「教区・支部情報ねっと」から調べるか、所属の教会におたずねください。



共に勇み立ち
教祖の親心にお応えしよう

第4回
5/31 土
6/1 日

参加御供 300円

教祖140年祭

四月月次祭の様様

4月に入って、本格的な春の到来を感じる日和が多く、少しずつ木々や草花が芽吹いて、そこかしこに可愛らしいふきのとうが顔を覗かせていた。また春一番ともいえる強い風が暖かな空気を運んで、大教会の駐車場の積雪も、残りわずかとなっていた。

迎えた15日、祭典日の朝は、前日からの雨が降ったり止んだりを繰り返していた。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。ぐずついった天気には殿内はストロブでしつかりと温められていたが、おつとめが進むにつれ、暑さを感じるほどであった。

講話に先立つて辞令交付があり、新たに瀨野巖さん(直轄)、松下勝博さん(神富)の2名がおつとめ奉仕員に登用され、大教会長より辞令を受け取った。(4P写真)

講話には宮本和昭役員が立ち、「2年前の私の神殿講話の中で、前会長様の昔の話をさせていただいて、その後大変喜んでいただくことを思い出します。練成会の影絵の人物作りを大学から帰ってきていた文雄さんが、一人でコツコツやっ

ていたこと、そこに私が手伝いに来るようになって、二人で仕上げたこと、三十乃奥さんが持つてきた山田耕筰作曲の交響詩『おやさま』のLPレコードを聞いて感動したこと、色々と話させてもらいました。それで前会長さんが講話の後で、『いやあ、私のことを器用だ、っていう人あんまりいないんだよな、そのことを証明してくれ

たのはあんただけだよ』と。不器用だ不器用だ、ってみんなから言われたんですが、いやそんなことはなかった。影絵の準備だつて、ほとんど文雄さんが一人でやっています。そういった話をしたことで大変喜んでくれて、『あの話懐かしいなあ』って話してました。



『朝づとめと夕づとめ、ちよっと手伝わってもらえないか』と声を掛けられて、来させてもらうようになりまして。ある日、少し早めに来ると、前会長さんが一人でこの中段をモップで掃いてるんですよ。あんな姿、本当に見たことないん

ですよね。前会長も掃除するんだ、これはすごいなと。『あ、これは俺もやらなきゃいかんか』と思つてね。それからずっと、会長さん達のおおぼがえりの時には、毎月神殿番として勤め、冬の日も休まないできました。それだけ健康になつたという事は、やっぱり私もういらか御守護いただいてるんだ、と思います。

神殿掃除しながらね、ここはマイクがなくても声が響くんですよ。朝来て、柏手を打つて、壁に掲げてある、『にち、に心つくした物種を神がたしかにうけとりて(号外)』これたまに口ずさむんですよ。この歌の意味は、日々心を尽くした物種は、神がお受け取りくださっている。その物種は腐ることなく、いつか必ず芽が出て花が咲くのであります。

前会長さんが出直されてから、本当に喜ばなく、心が折れそうになりました。よくこの頃、昔の夢を見るんですけど、なぜか文雄さんは出てこない。でもたまに雄大君を見るとね、ああ昔の文雄さんにそっくりだ、やんちゃで走り回ってた、と思うんです。大教会長さんと奥さんがいない時には、私が拍子木、初乃ちゃんがりすがね、雄大君がちゃんぼん、平和君が太

鼓で、夕づとめをします。普段は家内と2人でのおつとめですから、大教会でのおつとめはとても賑やかです。この楽しい夕づとめ、体力の続く限りさせてもらおうと思つています。

2年後には夕張大教会の創立130周年を迎えます。120周年の時の真柱様のお言葉が、当時のひきよせに掲載されていまして、気になるところを抜粋して読ませて頂きます。『教会がいつまでも続くという事は、その教会の名前さえ続いておればいいということではないのであります。親神様が未代かけて教会を許されたということは、時代が変わつても人の顔ぶれが変わつても教会に出入りする人の心が12年前のこの教会を願ひ出た人たちの心と変わらないように努力せよ、という思召であろうと思つのであります。月日が立つにつれて人の代が変わり、昔の記憶も失われていくと、考え方に変化が生まれるのは自然なことなのかもしれません。しかし親神様の思召、教祖のひながたを心の寄りどころにしているお互いが、「昔と今は違うから」と同じように考えられないというのは、信仰的な考えをしているとは言えないのであります。夕張の道は一日にしてなっ

たわけではないのであります。120年の間、皆様方の先祖先人が、教祖のひながたを慕つて神一条に道を通り、勤めてきたからこそ今日があるのであります。この先人たちの心を受け継ぎ、その足跡に立つて正しく夕張の道を伸ばして少しでも成人の歩みを進め、それと共に後に続く人を責任を持つて育てていくことが今の皆様方の役割であると思つてあります』という風に仰つている言葉がね、本当に胸に突き刺さります。年とつたから、もう動けなくなつたから、ということじゃなくて、今動ける時に動かなければいつ動けるの、『今でしょ』ね、本当なんですよ。

この間、テレビを見ていたら、いいことを言う人がいました。未来を考えても思い通りに行かない、それなら今を大いに楽しもう。今を楽しまなければ、今を楽しく生きなければもつたない。そんな人生を楽しく生きていこうと思ひます。私はこう決意させていたいただきます。これからも、親神様教祖を信じて勤めさせていただきたいと思ひますので、ひとつよろしくお願ひ致します」と話した。

大教会長はあいさつで、3月におちばで開催された春の学生おちばがえりにて、夕張の学生層がお

どばで元気に楽しい時間を過ごせたこと、世話取りをした学担や送り出してくれたご家族に謝辞を述べた。また、教祖御誕生祭、婦人会総会に向けての団参にも触れ、男性陣にしっかり留守を守らせて



もらいましよう、と話された。さらに、8月30日の前会長の一年祭に合わせて出版予定の追悼文集について、広く寄稿をお願いされた。祭典後には、神殿にて、婦人会が団参の道中の無事を願って、お願いづとめを勤めた。



屋根の損壊による、大物置の解体作業の様子。現在も片付けやゴミ選別など進行中。

婦人会第107回総会 親里に響く婦人会員の決意

4月18日、初夏を思わせるような陽気に包まれる中、教祖御誕生祭が御本部においてつとめられ、大勢のようぼく、信者が参拝に訪れた。清々しい青空のもと、それぞれが感謝と喜びを胸に、御誕生日をお祝いした。旅の疲れも見せず、参拝者の顔には晴れやかな笑顔が広がり、教祖のひながたを慕い、信仰を新たにする貴重なひとときとなった。



御誕生祭終了後は、本部食堂で昼食を食べたり、それぞれで帰所。別席を運ぶ方もいれば、午後2時から御本部西境内地において行われた、北海道教区婦人会主催『27プロジェクト』による草引きひのきしんに参加する方もいた。翌19日には、婦人会第107回総会が盛大に開催され、夕張支部からは31名が参加し



た。この日も晴天の御守護を頂戴し、婦人会員たちは共におちばに集える喜びをかみしめた。あわせて、年祭活動の締めくくりの年をいかに通らせていただくかを、それぞれが心に問い、思いを巡らせた。会場には全国から婦人会員が集い、「たすけ一条」に生きる決意が熱気となって満ちていた。

総会終了後は、各話所送迎車で混雑する中を帰所し、食堂にて『支部の集い』を開いた。グループ毎にテーブルを囲みお弁当をいただき、談笑したり、それぞれの信仰の思いや実践をねりあって、親睦を深めた。



ひのきしんデー

旭川支部では、早朝の雨があがり、肌寒い中でも、70名余が参加し、市内中心部の常磐公園で、ひのきしんを行った。広い公園の落ち葉や枯れ枝を集めると、さしもの塵芥車も直ぐにいっぱいとなった。薄日の指す中、参加者はかりものありがたさを噛みしめながら、春を迎えて身体を動かすひのきしんを楽しんだ。



三笠会場



宮丘公園 (上下とも)



南空知支部では、屋外での活動を予定していた会場が、雨の影響で相次いで中止となり、屋内での活動となった岩見沢組三笠会場のみが実施された。三笠会場では、市内にある特別養護老人ホーム・ことぶき荘にて、車いすの清掃作業を中心に17名の教友が参加。中止となった近隣地域からも参加者が訪れ、予定していた以上のひのきしんを実施することができた。

札幌北西支部では、宮丘公園の落ち葉や側溝内のごみを除去するひのきしんを実施した。雨天決行と事前にアナウンスしていたため、参加者36名は合羽や雨具をしっかり準備して集合。例年より作業範囲を狭めながらも、泥水の混じった重たい落ち葉を袋に詰めて運び、雨の中、1時間あまりのひのきしんをやり遂げた。

登殿参列

4月26日、御本部月次祭登殿参列が実施され、幌向、祝梅両部内合せて計7カ所の教会長が参列。春の温かい日差しに包まれたおちばでかぐらぶとめを結界内で拝し、年祭活動の通り方を改めて振り返り、残り期間自らの活動へ拍車をかけるべく、更なる心の成人を誓った。また、夕張部内は今回をもって最後の登殿参列となった。

おつとめ奉仕員登用

このたび、所属教会長と大教会長の推薦を受け、4月15日付で2名(左写真)が夕張大教会おつとめ奉仕員となりましたので、ご報告致します。



瀧野巖さん (直轄)

松下勝博さん (神富)

にいがけ実動について

活動報告

日時：4月30日 10時～15時

場所：岩見沢市内

参加人数：2名

内容：十二下りお願いづとめ、

神名流し(大教会前交差

点、戸別訪問(45件)

次回以降実施予定

日時：5月29日 10時～15時

6月29日 10時～15時

集合場所：夕張大教会

庶務部 4月



5月1日 朝づとめ 講習生2名が中期後期と受講

▽修養科 第一〇〇六期

藤崎 利男 (旭都) 4・1

佐藤 心元 (上富良野) 4・1

長谷川明子 (直轄) 4・1

▽初席 大橋 信人 (由仁) 4・2

▽登殿参列 幌向、北篠津、神江、沼貝、

北網、本三川、梅伊達

▽をびや 2件

▽おまもり 3件

▽大教会おつとめ奉仕員 4・15

瀧野 巖 (直轄)

松下勝博 (神富)

▽詰所教養掛

5月 藤崎 勇 (旭都)

6月 岩佐 善昭(幌都)

大教会日誌抄 4月

1日 たすけ推進会議、役員会議
4日 会長、組例会

編集後記

昨年引き続き今年も4月の教養掛を務めさせていただき、修養科生、また、梶川先生、教養掛ホープ、いろいろな方々と共に、学び学ばせられ「アッ!」という間の有り難いひと月だった。

3月末から居て、「をびやづとめ」は「萌出のつとめ」に繋り付くように参拝することができた。「をびやづとめ」に際しては大教会長様のさまざまな説明を伺い、なるほどと思いつつ自らの勉強不足を思う。同じ言葉でも受け取り方は人それぞれ。親里で学ぶ旬の時期に、あやふや我流説明は相手に長く誤解や、勘違いにもなる。

教え、その他の事についても興味を持ち、楽しく学び心動かしたい。また、おたすけも相手に関心を寄せることから始まると思う。日頃から柔軟に広く心を構えて歩ませて頂きたい。

(藤田ゆ)